

# Eureka XI

六年制通信 No.19 令和5年9月29日(金)号

## 肝心なのは立志

夏休み前から色々な面で体調がよくないのですが、中でも集中力の衰えを感じて焦っています。誰かの漫談で、老化が進み人の名前が出てこない、それくらいならまだしも「言ったことを忘れ、言おうとしたことも忘れ、忘れたことも忘れました」というのがありましたな。これ、聞いたときは大いに笑ったのですが、もう笑い事ではなくなってきたようです。しかし考えてみれば「忘れたことも忘れた」という状態は幸せなのではないか。おお、いいところに気がついたと思ったのですが、ダメですかね。

夏休みはほとんど勉強ができなかったのですが『言志四録』は少しずつ読んでいました。最近、佐藤一斎の孫娘が吉田茂の養母だと初めて知りました。気位の高い女性だったようです。『言志四録』は吉田茂も読んだに違いないですね。また、西郷隆盛は人望の塊ということになっていますが、その西郷さんが愛読した、しかも自分で気に入った文句を編集して持っていた(『西郷南洲遺訓』として今も残っています)という本ですからね。君たちもよかったら手元に置いておくといいですよ。講談社学術文庫で四冊本として出版されています。私もこの版で読んでいます。以前も紹介しましたが『言志四録(一)』(=『言志録』)、『言志四録(二)』(=『言志後録』)、『言志四録(三)』(=『言志晩録』)、『言志四録(四)』(=『言志臺録(てつろく)』)という順番です。

ちなみに佐藤一斎の言葉で最も人口に膾炙しているのは『言志晩録』にある「少にして学べば、即ち壯にして為すこと有り。壯にして学べば、即ち老いて衰えず。老いて学べば、即ち死して朽ちず」です。これはつまり、人間は一生学び続けることができる、そう言っているのですが、全くもってその通り。いくつになっても人は学べるという言葉は私たちを支えてくれますね。人は他人を励ますのは簡単ですが自分を鼓舞するのは難しいものです。ですから、古くから言われているこういう言葉をたくさん暗唱していると、それらが挫けそうになる自分をきつと救ってくれます。それが古典の、言葉の力だね。ここぞという時に支えとなる言葉を人は求めるものです。

さて、佐藤一斎が繰り返し述べていることがあります。それは「志を立てよ」ということです。吉田松陰は「志高ければ、意おのずから盛んなり」と言っていますが、一斎も言葉を変えながら何度も立志立志と書いています。『言志四録(一)』、つまり『言志録』から私のお気に入りをお一つ紹介しましょう。「学は立志より要なるは莫(な)し。而(しこう)して立志も亦(また)之を強(し)うるに非らず。只(た)だ本心の好む所に従うのみ」(訳: 学問をするには、目標を立てて、心を振るい立てることより肝要なことではない。しかし、心を振るい立たせることも外から強制すべきものではない。ただ、己の

本心の好みに従うばかりである)。「ただ、本心の好む所に従うのみ」なんて、迷ったときに自分の指針になりそうな言葉ですよ。『論語』にも似たような文言があります。「之を知る者は之を好む者に如かず」でした。強制ではなく本心から」というのは前に書いた「must から will へ」と同じことです。「やらされている」から「みずからする」心になることが立志なのでしょうね、きっと。何度も登場してもらいますが、藤井聡太七冠や大谷翔平選手など、やらされている感など全く持っていないはずですよ。

さて、ところが志を立てることよりも長く続けることがよほど大切だという人もいます。ある哲学者にどうして哲学を志したのかと問うたところ、失恋したせいだと言った後、いや何度も聞かれることなので面倒だからそう言うことにしているが、実は動機などどうでもいいと思っている。何が何でも哲学をしようという志を立てたことはなく、ただ長く、飽きることなく続けることができたのが哲学であったに過ぎない。つまり自分にとってたった一つ残ったものが哲学だった、そう答えています。

私はこれも一つの真理だと思っています。今はむしろ、長く続けることの大切さ、そして難しさを実感しています。これは若い君たちにはまだピンと来ないでしょうがね。

#### 今週のおすすめ

・山口真一 『正義を振りかざす「極端な人」の正体』 (光文社新書)

何かにつけ不謹慎なことに対し不寛容な時代であり、「不謹慎狩り」という言葉もあるような。この本には私の知らないことがいっぱい書いてありました。たぶん、私がこういう世界に極端に疎いからだと思えますけど。でも、読んでみて、そうだろうと思っていたことと非常に意外だったことがあって、興味深かったですね。そうだろうと思っていたのは、いわゆるネットの炎上というのがありますね。あれ、正義を振りかざし好き放題書いている連中の数ですが、炎上一件当たりに参加しているのがネットユーザーの0.0015% (七万人に一人) だそうで、これは予想通りでした。極めてうるさいノイジーマイノリティ (ギャーギャーとうるさい少数) の意見 (あれ、意見なのかな) がサイレントマジョリティ (黙っている多数) を無視して世論を構成していく、そんな世の中だそうですよ。そう言えば、あれどこでしたっけ、一人のクレームで公園の設置を取りやめたとか、そんなニュースありましたよね。そのクレーマーは子どもの時、公園で遊ばなかったのだろうか。

意外だったのは、そのノイジーマイノリティは中高年の男が多いらしい。私やん。ないわ。私は自分の実感として、若い時の方が圧倒的に正義感が強かったですから。世の中は白か黒で、灰色はないくらいに考えていました。でも、年齢を重ねると正義というものが厄介なものに見えてきます。自分と考えの違う人がたくさんいることもわかってきます。嫌いだけど、考えが違うけど、協力しなければいけない場面を数多く経験します。ですから中高年が自分の正義を振りかざす中心にいるとは思えなかったのです。君たちがどう思うかは知りませんが、私には信じられないほど意外な話でした。

その他この本には君たちが知っておくべき情報がたくさん書いてありますよ。

BGMは 曽根由希江 の HOME でした…。